

鳥海山麓 自然の里 コース



コースの概要

本荘市から国道7号線を南下し、仁賀保町平沢に入ります。海岸沿いに旧北国街道をたどり由利海岸波除石垣を見学します。海岸に沿い累々と続く石垣に圧倒されます。次に象潟町に入り、田園地帯に浮き出る九十九島を眺望します。その後、鳥海山麓の金峯神社で例祭のチョウクライ口舞を見学します。法体の滝の音を聞きながら舞と囃子に吸い込まれていきそうです。昼食を取ったあとは獅子ヶ鼻湿原植物群落をゆっくりウォーキングし自然にひたります。



順路

由利海岸
波除石垣

象潟
(九十九島眺望)

小滝の
チョウクライ口舞
(金峯神社)

獅子ヶ鼻湿原
植物群落



由利海岸波除石垣(仁賀保町・金浦町)

海岸浸食が激しい仁賀保町芹田に、海岸線を守り、農地の決壊や塩害を防ぐために江戸時代に築かれたものです。石垣は海岸線に点在する小丘を石堤のように結び、総延長369.3mです。全国的にも貴重な土木遺跡です。また、金浦町飛の石垣も同様に万石普請と呼ばれ本荘藩の手で築かれたと伝えられています。



九十九島(象潟町)

かつて宮城県の前松島と並ぶ景勝の地であった象潟には多くの文人墨客が訪れ、中でも松尾芭蕉は「象潟や雨に西施がねぶの花」などの句を詠み、奥の細道で訪れた地として知られていました。当時の象潟には舟が出入りし、九十九島と称される大小さまざまな島が点在していました。しかし、文化元年(1804年)の大地震で潟が約2m上昇して一夜にして陸化してしまいました。

小滝のチョウクライ口舞(象潟町)

金峯神社の例大祭日に境内のチョウクライ口山(土舞台)で舞う神事です。御輿が土舞台を3周して安置され、ついで舞となります。慈



覚大師が鳥海山の手長足長を退治したことに感謝して奉納されたといわれます。舞は小児の舞など7演目で、県内の延年舞(長寿)として唯一のもので、山伏修験の伝えてきた舞楽です。チョウクライ口は長久生容(長く久しく生きる)という意味に解されています。

獅子ヶ鼻湿原植物群落(象潟町)

鳥海山の北西山麓に広がる広さ26haの湿原地帯で、鳥海山の溶岩地帯に降った雨や雪が岩の裂け目から地下に染みこみ、伏流水となって泉として湧き出しています。湿原に7カ所ある豊富な湧水とともに鳥海マリモとよばれる球体のコケが緑鮮やかに自生しています。また、周辺は鬱蒼としたブナ林で特異なコブや何本もの太い枝を持つ大木があり「あがりこ(奇形)の森」とも呼ばれています。